

播州名所巡覽圖繪

丑

ル 4
1734
5



播磨名所巡覽圖會卷之五目錄

龍野城氏宮一社
寺院土寺

清水

秦原津河

夜比良津社

龍門寺

梅津の浦

下が溪

室津

岩本社 二層塔
河合社 櫓中社

津宮寺 送跡

大雲寺

龍野川

小津

袋尾津河

中津寺

安栗川

燃山

池の溪

室明津

堀田河 恒古社
白松社 徳建

天王祠

正洞院

三社明津

掘山城址

南天燭大樹

平井保昌墓

釜水溪

入梅松 山伏岳
多ひが溪 熊子岩

大雲寺

正殿 別雷堂を拜宮 庁園社 古田社 本社社
若宮社 八幡宮 荒津 松尾社 棚尾社

見世寺

正法寺

掘山城址

行徳驛

赤松則勝墓

令別山城址

因融寺

七曲舟 地獄谷
銚口山石 傾成岳

門崎

小翠川

津名寺

津運寺 支若墓



○臺山といふ今の宮乃山なり

三社明神 白山あり 鹿野社といひしなり 小津村より大明三年遷り

城山城趾 平舟郷中飯内村より赤松の即休禪寺義雅の居城之柳ヶ城の山谷にあり 南に赤松の遺蹟の穀百里も眼下に透り 藤原の攝津守保保川の大川あり 細川山名乃雨勢 五万余石を以て藤原の末裔の遺蹟にあり 藤原の攝津守保保川の城一斤の城あり 藤原の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり 藤原の遺蹟あり 藤原の遺蹟あり

小柳清水 平舟郷飯内村より 横瀬十水の其一なり 小津 小室郷小津村よりあり 藤原の西之万年 長者の宅地といふ今尾上と言ひ

梶山城趾 河内赤松内村より谷谷甲斐の國氏 行島驛 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり

赤松原神祠 川の辺 代袋尻神祠 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり

赤松則勝墓 川の辺 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり

麻谷山中島寺 石足庵中 平舟保昌墓 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり

令剛山城趾 赤松政則の墓あり 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり 赤松の末裔の遺蹟あり

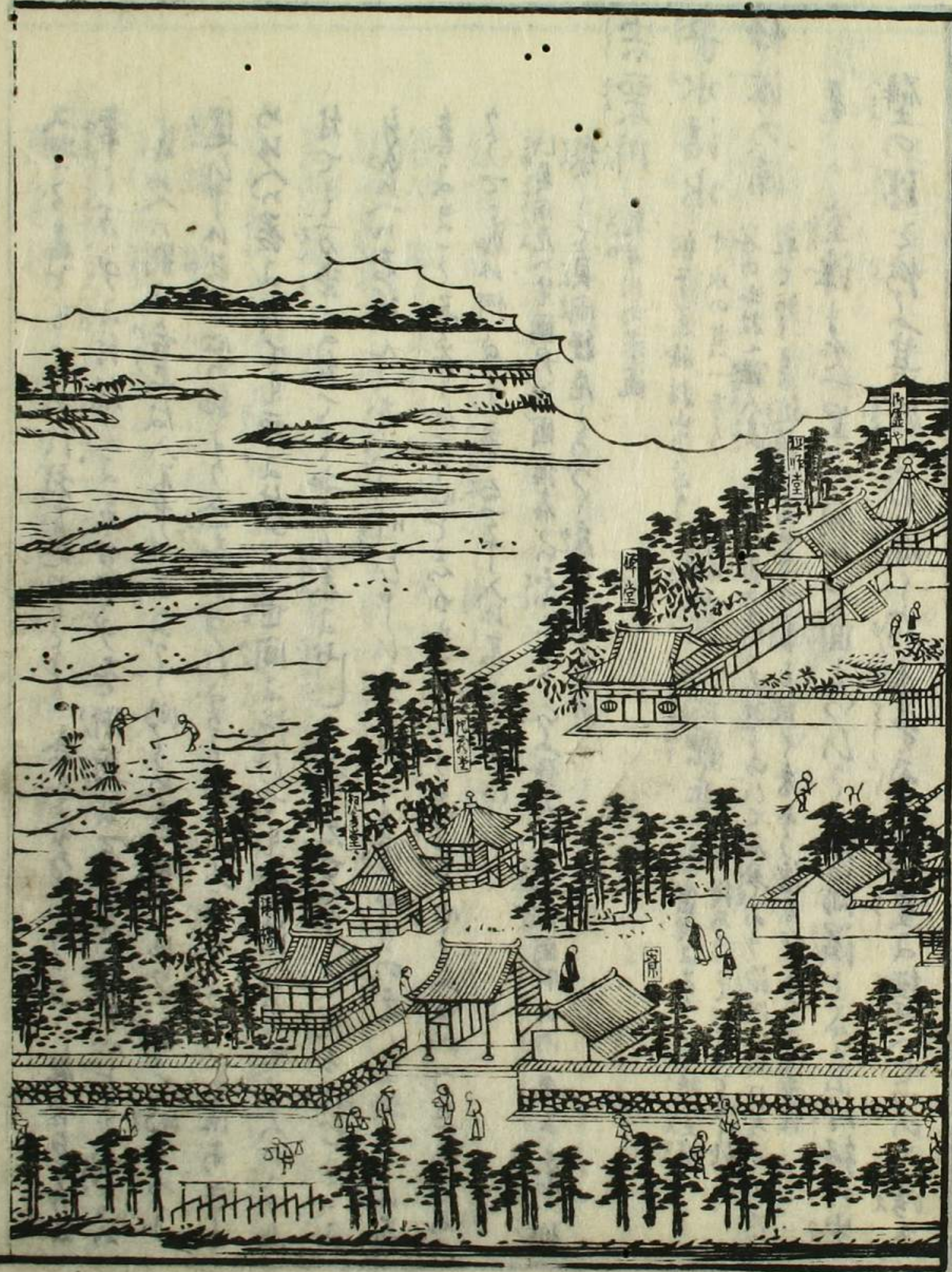
濱

天徳山龍門寺 細于溪田村 閑基 盤珪和尚伽藍大地

盤珪佛智禪師 攝州攝津郡淡田郷の僧なり 元和八年三月の降

誕ん七八歳の比より万人は勝と村民皆家の祿童と稱は十歳より
て父乃憂ふ丁ひ十二歳より大受明徳乃論を講は聞人は皆感と
ぬ日郷西方寺に入て不勤明王又祈教して日國赤徳院臨禪師
乃法流雲南祥和尚の弟子とありて出家しぬ後弟子凡に百人
あり諸國に度せし寺院を起し其教五十余ヶ不元徳六年
九月遷化以年七十二歳元文五年又十年より大法正眼國
師と謚あり

○盤珪法流と印板あり世に先と著し又著せしと雨乞乃致と徳石
の意をあらわす白挽致と制し教へぬに歸らしり又須臾して雨乞
とす今且例としてうごころん
攝州攝津郡淡田村不徳庵の閑基貞閑後尼のり禪師のり禪師のり
便り由神ひす一尊ア入ひ其れとてさくも法受りて所産はや取らざる
け方何のりく居ひす之中心易に御修めゆり心かす心かす心かす
度存ひ去るく其後著るく悟り度存ひ去るく悟り度存ひ去るく悟り
ふいふ心かす其心と御修めゆり心かす心かす心かす心かす心かす



天徳山龍門寺

此山を于深方りし和尚今乃
てく建立復舊舎再建ハ赤松

一族萩原孫三郎光則をり

とよりら墓有り 用山堂ハ

境内のそく日あり幽閑の

地なり 元禄中

修葺あり 修葺ハ

多余人を以乃

ハ佛智弘法大師

と稱シ希代の

又徳と詔つ



多岐川

後天のまを金あり編の
老千細とまくるま
と赤江なり

獅子岩

七曲の中より獅子岩
踏踏とぬき

炭焼谷

七曲の中より炭焼谷
石の樹林炭と焼しし
石つ

とらり石

大石群を採たつら
海へ海へ入り入
船入り船り



七曲舟

傾城嶽系石塔

七曲の中より傾城
室の花女けいこのとより
海中よりと採り
社つ。

山伏嶽

山伏の原流と
あまつり

鱧口岩

地獄谷

七曲の中より地獄谷
谷口一帯平ま
川が江の流るる



室津

嫡子守景を依り若州に遷し其身心志をうら明石大炊女に依りて
 四後以死難へ見性禪寄を慕ふ常印大居士と号し以て附承録九年乙
 丑十一月に崩して其改むは「その後姫治の城を松平下総守隆昌侯の治
 二番小屋を達き見の兵卒二人を至り是難に取ひのりて其南方を城門の
 池に院を築きと建て宮取目道の傍りて其東方に水窟室を築きとて傳ふ
 虚空を其の昔城郭の用あり
 室津 室の泊 室乃浦 出津の梅州の一都會ありて西國大名参
 勤往來乃若岸と定り又系船の津とも定む帝畿と云ふに十
 二里山の三面を覆て江灣の一方は海に上り百里義景と親厚し
 泊に池の中は松平とてく旅客の波上は枕と安んじ峯は撫子の
 子と郷高し岸には花女の系竹と堀き國守の懸る海士乃綱子と階
 せ流は美妙若樂窮覽の界あり○室とは人の居室のり之をい
 江のたまいにこりたるふたてり○舊傳曰非代のむらじ津は
 夏蔓繁茂して晴夜乃てく道治も見へり○りのは加茂別雷

昨日向國高千穂峯よりけみ親向し夏蔓を依拂ひ移しと始
 として今の勢昌及びりて西海往來乃宮取風波と津と要津
 とあり高藤居士乃俊富高人の交易ありと津は繁盛なりといふ
 あり又大明の令華津と集りて令華津とも号する
 いろいろ浦のせとれ傍りて鳴鶴の磯に波はぬきとて傳ふも
 山のふもとにせぬ夜に室の海はつまひひりてり舟舟人

昨夜入長松之洞 巖泉咽号 嶺猿吟
 夜宿松浦之波 青嵐吹号 皓月白

夕中離け社に加茂のともりやよこのともり乃社なりしその津よりまけ集りて
 七街志はしらすは社民といふまにやまをりびつたりたる数ありてまはり津巫
 とも集りて振びたりこれの津にわが雨風乃娘ひまるとの津ありとやま
 そきこゆの雲まげんの津らういひおひひけぬのわたりまたの月
 そそるゆの云

室明神社 室の峰明神山より 正殿の加茂別雷堂を津宮東の行 法方田

社西の芝布衿社若宮之古田乃東又松尾社正殿の後河合社下鴨
御祖津之其西の権殿之二層塔少は多宝佛と奉る

八幡宮 塔の西 松尾河 石中橋 河橋田
祠 若宮 白松社 多層の 護摩 中津津家之加茂忠康云云と書附して傳らる

津宮寺 送跡 今廢して社人 園氏の居宅と云

津傳曰抑當社乃津津日向國高々德峯二上嶽より治山二葉山へ
遷らせ終ふ其附け地は須臾畜通し終ひ厥后加茂一先條乃附

津藏三十六人奉侍と云ひ傳へりかろ後昔を伐拂ひ湊と開き
終ひ一芥沓謙の三刀をも末社の神と崇め

例条の小五月と云ふと稱は先加茂駿馬の神なり準と云ふその
附當社乃津宮上加茂七家の内為居大踏氏都より下向めて津

所は終へ舊例の祭式あり 津宮の例奉るはありは九又十一年の同二又三の
所は終へ舊例の祭式あり 津宮の例奉るはありは九又十一年の同二又三の

日ハ遠道の清人編麻乃てく其日の賑ひまらん方は町中うは紅宅
を飾り一門和園乃末宮泊取の猿人爰は集ひかくとに群り一津

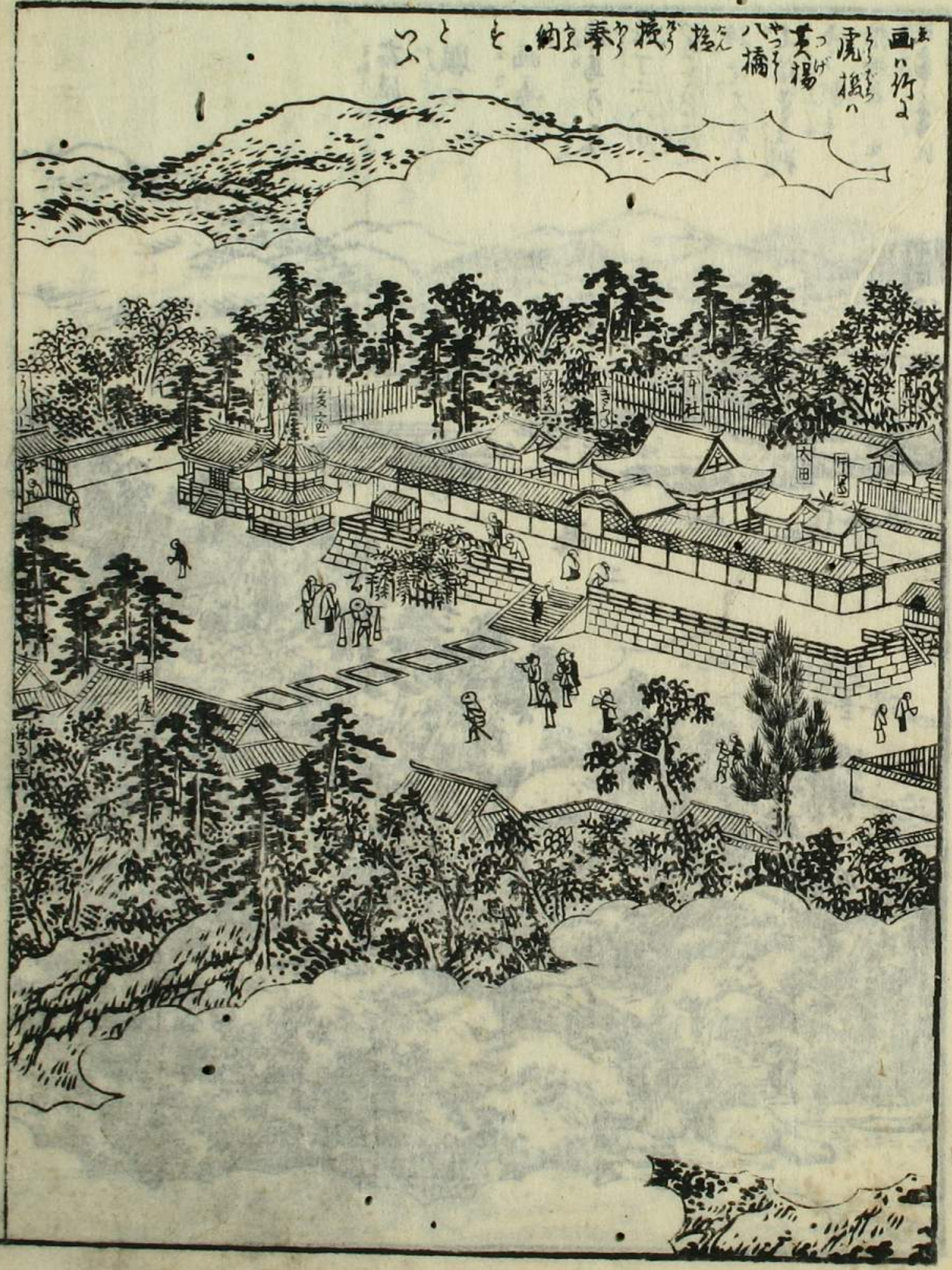
今ぬぬは日祭日後九十日津の家々の業を停て祭式の調度
と云羅と云皇都の葵御蔭みつきと云羅と云祭式あり

天王祠 明神より末の林間あり末津平改天玉六月七日は華塔の祇園舎を奉て
佛通山見性寺 海龍洞和尙其後海陽和園寺の在中和尙と稱して中直りは中阿弥陀

佛心の方より末の末 津名寺 奉るの聖觀音 大雲寺 毘沙門天荒津の社あり
正洞院 中真より後居り如何く在中和尙乃爾基あり大地あり 正法寺 奉

津涼山津運寺 奉 友若墓 津宮あり津宮東加茂園護末墓の門前は山信備
社園上人中真 因光大師所縁御款 當代天明寺中又再の 大聖寺

觀音寺 寂靜寺 德意寺 不二庵 法釋院 六ヶ寺あり
御茶屋 津宮 府殿の別荘ありつうへん政所屋敷あり池田輝政の



画の行
 虎揚
 八捕
 約奉
 夜
 格
 と
 と



室明津
 尚は信素の什室
 源朝之御判
 寄附状
 社於して中極
 の御内按志林
 田室御厨以上
 三少の底文治三
 兼九月十八日の
 寄附状之其外
 歴代御軍家の御教書
 判物等教通あり
 平重衡御記
 表の方栗本裏紅
 花梨天板滝委
 面画の雲月裏の

ていねとありしに... 赤穂郡... 赤穂

燈籠堂

燈籠堂 赤穂郡赤穂町... 赤穂

陸村

陸村 赤穂郡赤穂町... 赤穂

那波 那波浦 那波大嶋

那波 赤穂郡赤穂町... 赤穂

那波城趾 得業寺

那波城趾 赤穂郡赤穂町... 赤穂

江林山徳業寺

江林山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

温泉山慈眼寺

温泉山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

高通峯

高通峯 赤穂郡赤穂町... 赤穂

飯沼浦 日湊 日泊

飯沼浦 赤穂郡赤穂町... 赤穂

生島

生島 赤穂郡赤穂町... 赤穂

五景系花香本

五景系花香本 赤穂郡赤穂町... 赤穂

見ゆの深

見ゆの深 赤穂郡赤穂町... 赤穂

毛がぬ小浦人乃安居

毛がぬ小浦人乃安居 赤穂郡赤穂町... 赤穂

づりふ小島

づりふ小島 赤穂郡赤穂町... 赤穂

朝夕

朝夕 赤穂郡赤穂町... 赤穂

猪島

猪島 赤穂郡赤穂町... 赤穂

塩

塩 赤穂郡赤穂町... 赤穂

小倉所

小倉所 赤穂郡赤穂町... 赤穂

大避明津

大避明津 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

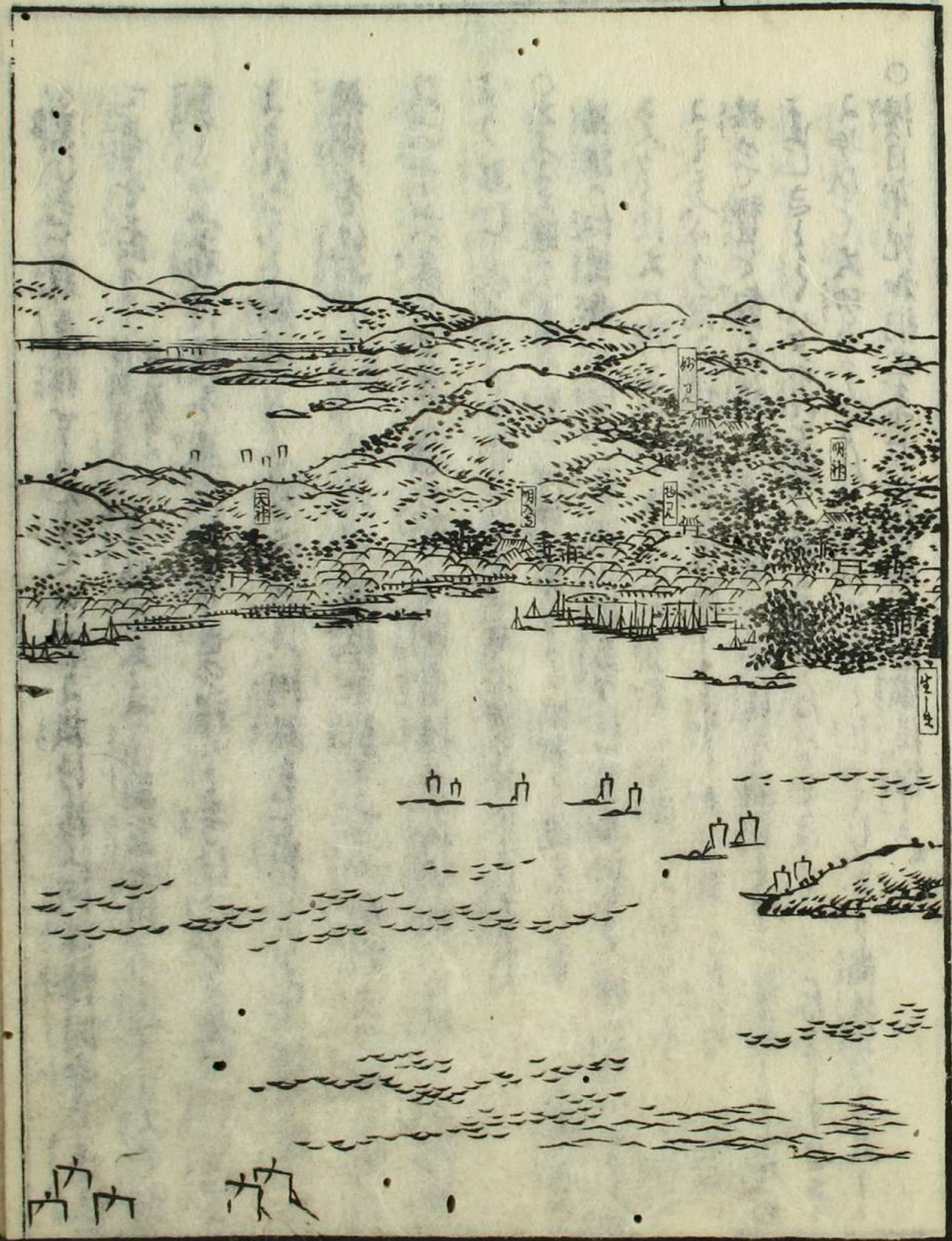
志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

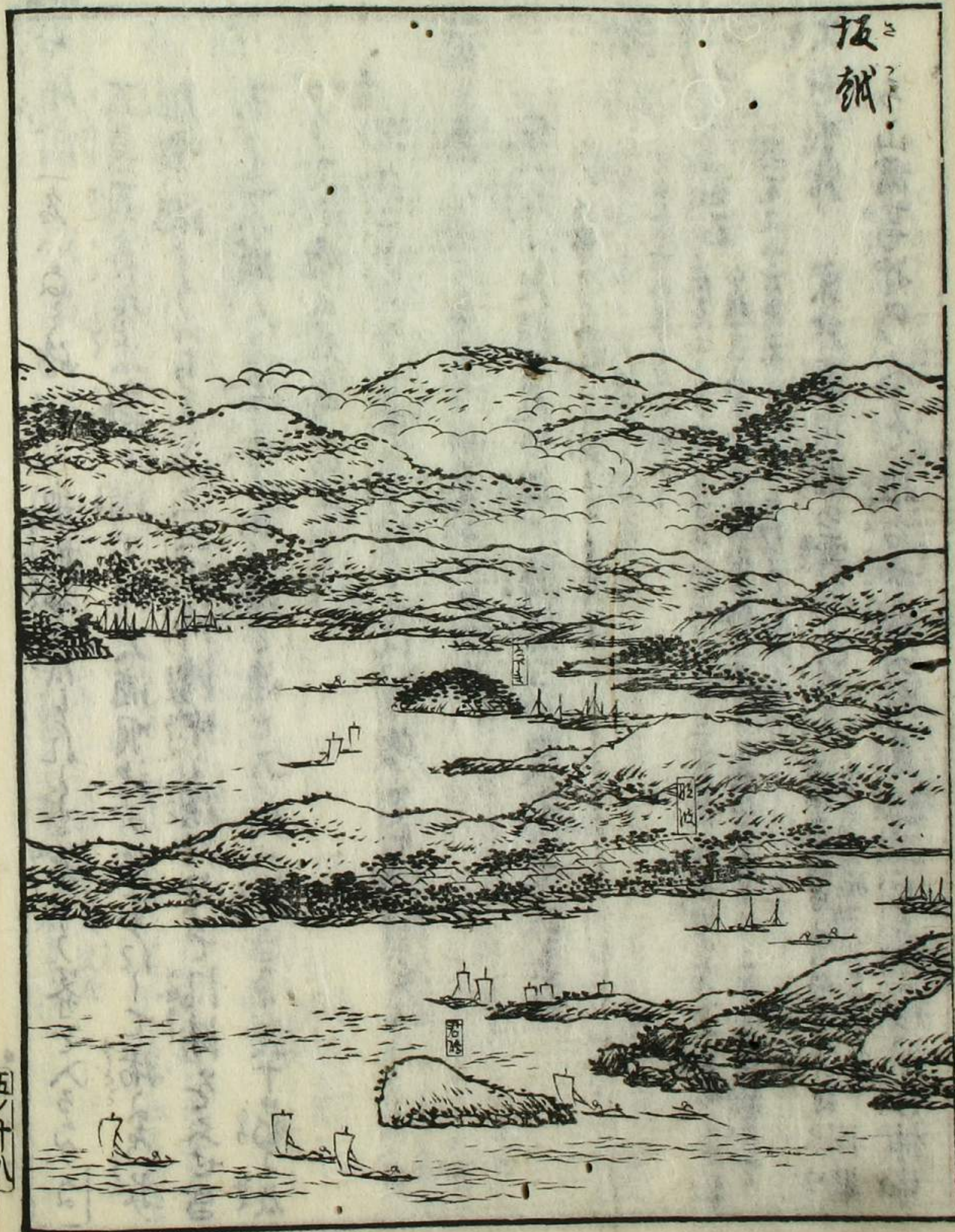
志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂

志山

志山 赤穂郡赤穂町... 赤穂



内内 内



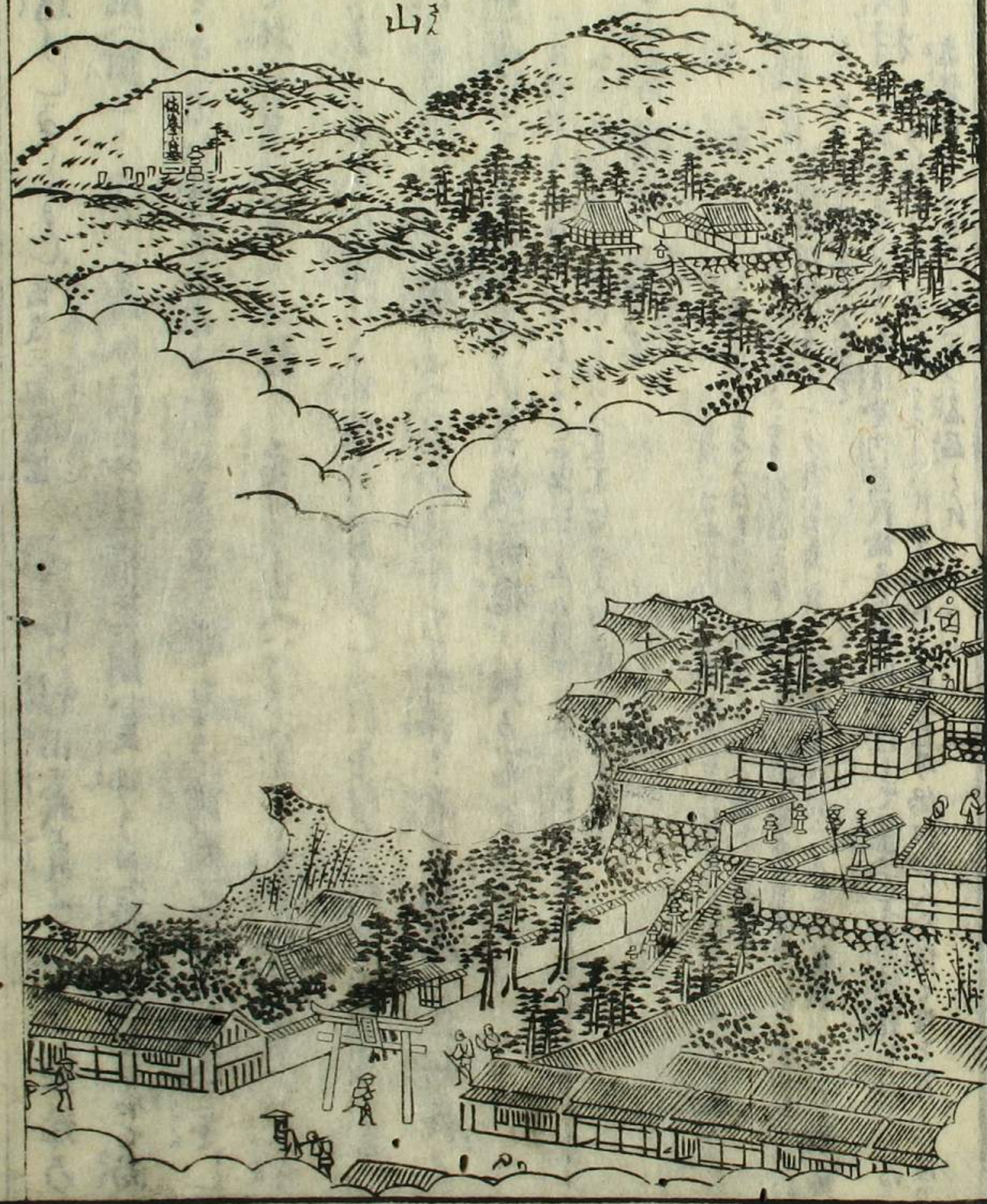
坂
城

内
内

先を並たり降園寺大秦 皇極三年又東國富士川乃造り又大生部
多とつ者異貴を養ひて常世の神と号け信どる者材室心
まうはつとく御里の人を溺怒に河勝と悪みて大生部と捕へて
妖術を呪明と日本 又天神地祇を多りて安國利民の政と布き
又二十六番乃桑樂の面を制音律糸竹の術を修する河勝
より始むとつ。○津名帳葛野郡大酒の神社に大秦と
○又大國入秦乃雅と河勝の家より攻捕も避来乃養り又秦姫乃
始に仁徳帝又仕し百海の酒若れ其始祀を大酒と祀り
るうづ大い御は日どき上古のるさう百海の又けあまりし
又とえり既又傍悪俊も百海より来り夫れ奥より古流あり○酒若
始めて蟹と鮫の術と織て秋其術を服用する其甚やうる又膚の
よまじきとくハタの姓と揚ふれ又秦とばハタはよりり
又押ひく大切ある人なりはひて作と祀るもむかひり尚後考あるべし
○續日本紀和銅三年七月攝摩國始織後神云

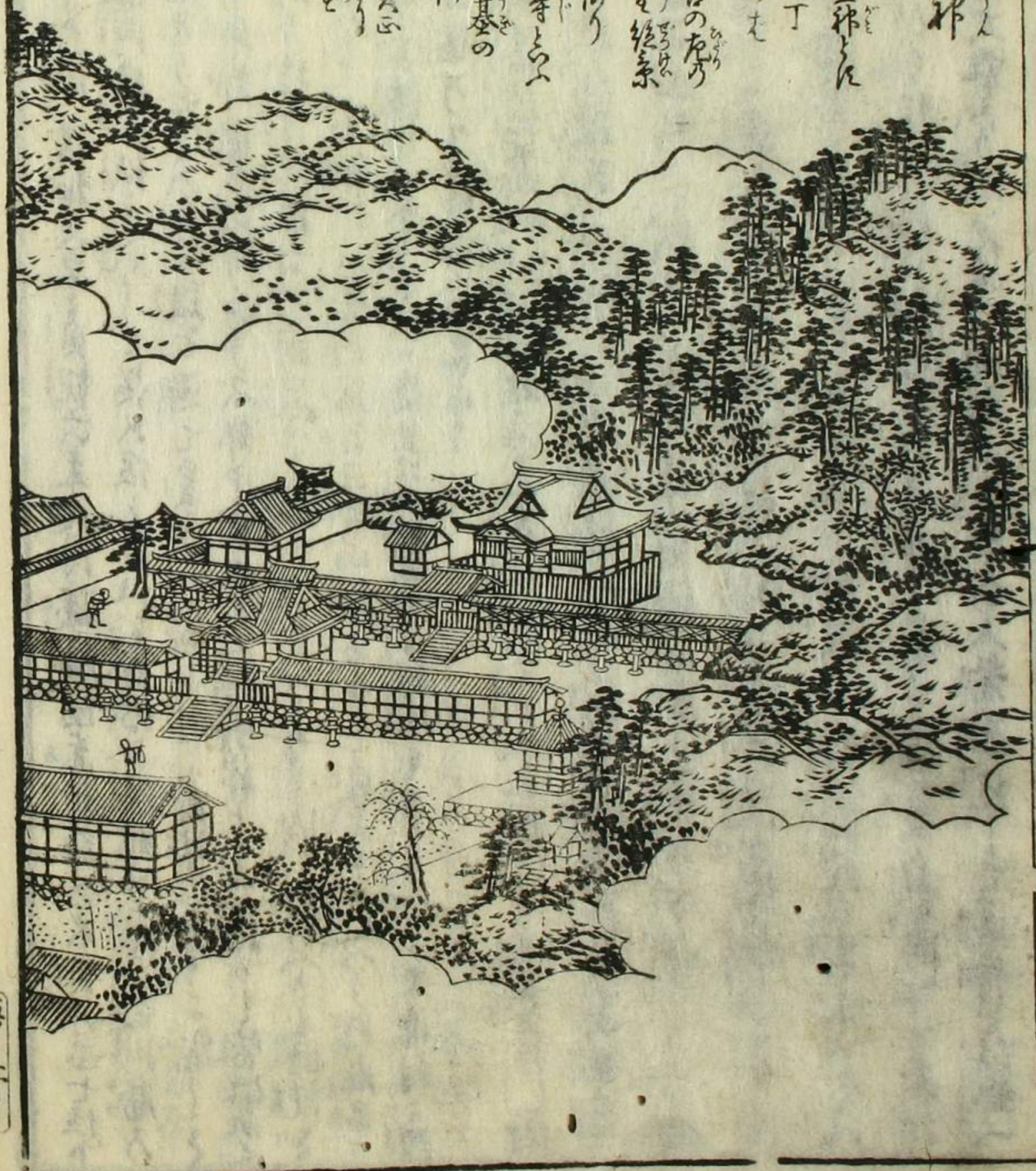
○三代實錄 徳和天皇貞觀六年八月攝摩國赤徳郡の大外心七位下
秦造内麻呂飯又叙して後又後と云 舊傳又出郡の上代秦川勝乃
乘地方より入麻呂雅と避て又其妻一附く夫れの中又雅と
三本乘都波の故りあり又郡中又く又大避明神とて祀るも皆け
とる後世記孫とく國史も又んがたうりはたつとくけ流と
りあへり 峯相記又秦内麻呂三抄山親善寺と建まるとつり内麻呂
河勝の子孫とる人これ其孫或は家属も多る人本津村に河
勝僕後乃子孫とるるあり
備後三郎高德墓坂城山 延元元年足利氏九州より攻登りし時
脇臣義女攝摩引込に思徳後守範長子息三郎高德三
石の南乃山を城とせしこの浦へ出願屋殿は退付んとせし
されの軍と底と世多り相知る傳小致け最き候迄とあさる
赤松が兵路と逃てこれ討やぶり那波より阿弥院が客と十八
度就ひる後六訪討なされ過堂入る範長自宮にたり赤松
が勢の大勢を孫太郎門次即重氏とる者葬れして遠背と故郷へ

親觀寺
妙見山



大遊明神

坂城の麓靈神と云
本場より二丁
三丁よりゆけを
境内方八丁宮の左
方の丘ハ眺屋縁系
傍より別當所
宝珠山妙見寺と云
美云宗妙基の
用基塔中
十六坊云云
遊明神





備後三郎
高德

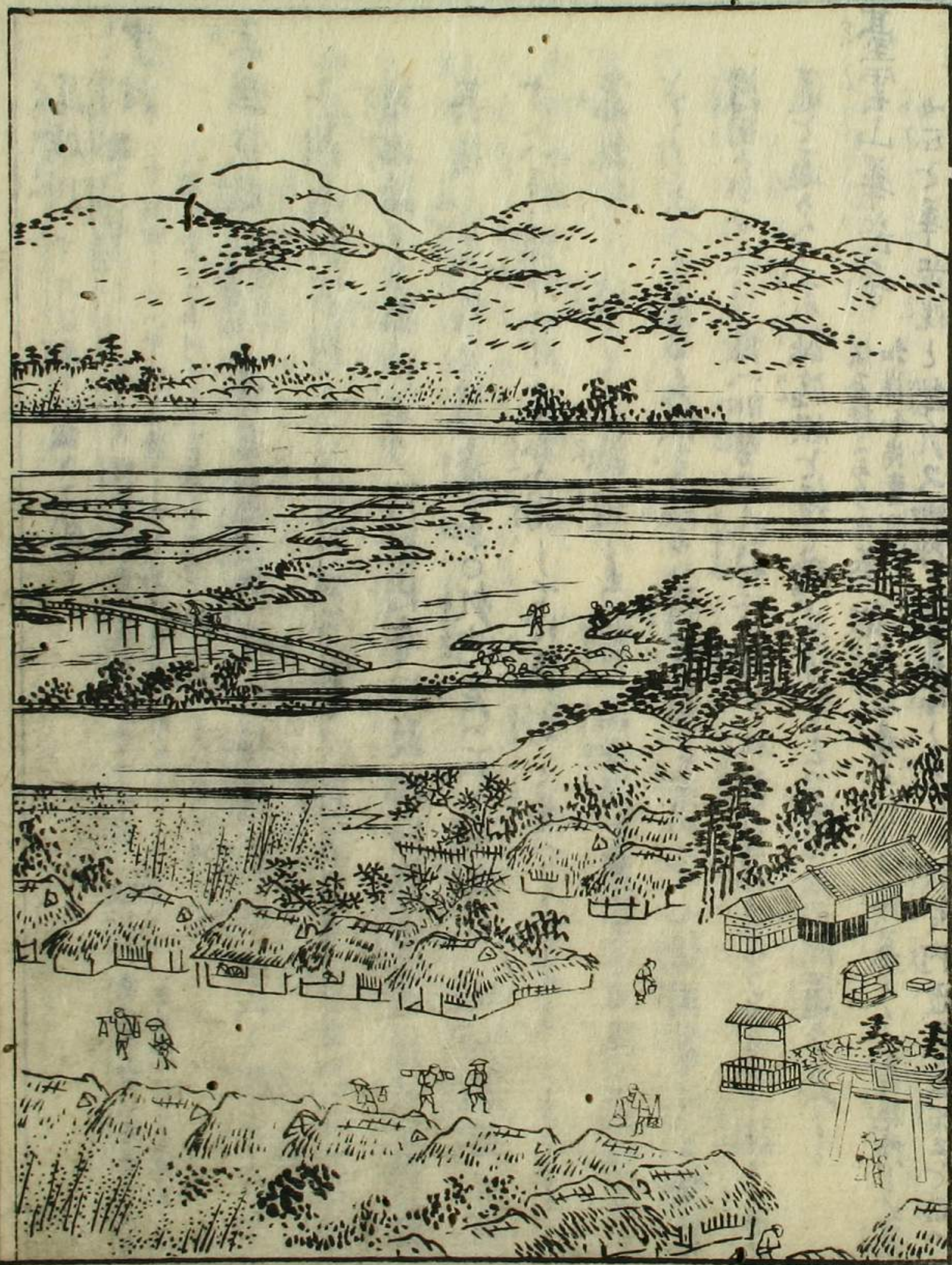
送ししりしん 備後三郎高德 ○高德の弟田義貞に属して佐藤乃
 國へ城より多るが義人配去の後備前國へ立ゆり兜傳ふ深き居て尚
 且平定と達せしむる新田義治と喚なり満國をく田文とをきし
 て拓き集りてくは深き居たりふ又けりてくは氏日渡して逆考
 とありそ生の遠く切腹乃若後しこれを以て餘黨の若茂教
 にありされは高德が友度お遠して義治と友は信濃へ移り終ふ
 別發して志純と号し其後高德が終る石と志純云

雲谷山常樂寺 坂城を屋
 村あり

龜乃甲 赤徳の旗下のさくらの川より石を奪て通涉り其秋ら龜の甲に似たり供養あり
 甲と城して海なるは名は先をてせきく水と城下と通流

尾崎八幡宮 坂城の南尾崎村あり別當天香宗金光山律宮寺長十年岳水守虎門
 再建坂城の庚十七ヶ村の古養津とい例祭八月十八日赤徳城下より火物
 赤徳城より日本舟一の名品とい





尾崎八幡

尾崎川

中村

赤穂

中村の町は尾崎川と入川に二丁目に其墓あり三丁目に其墓あり
赤穂の町は赤穂川と入川に二丁目に其墓あり三丁目に其墓あり
尾崎川の町は尾崎川と入川に二丁目に其墓あり三丁目に其墓あり
赤穂の町は赤穂川と入川に二丁目に其墓あり三丁目に其墓あり
尾崎川の町は尾崎川と入川に二丁目に其墓あり三丁目に其墓あり
赤穂の町は赤穂川と入川に二丁目に其墓あり三丁目に其墓あり

墓雲山華岳寺

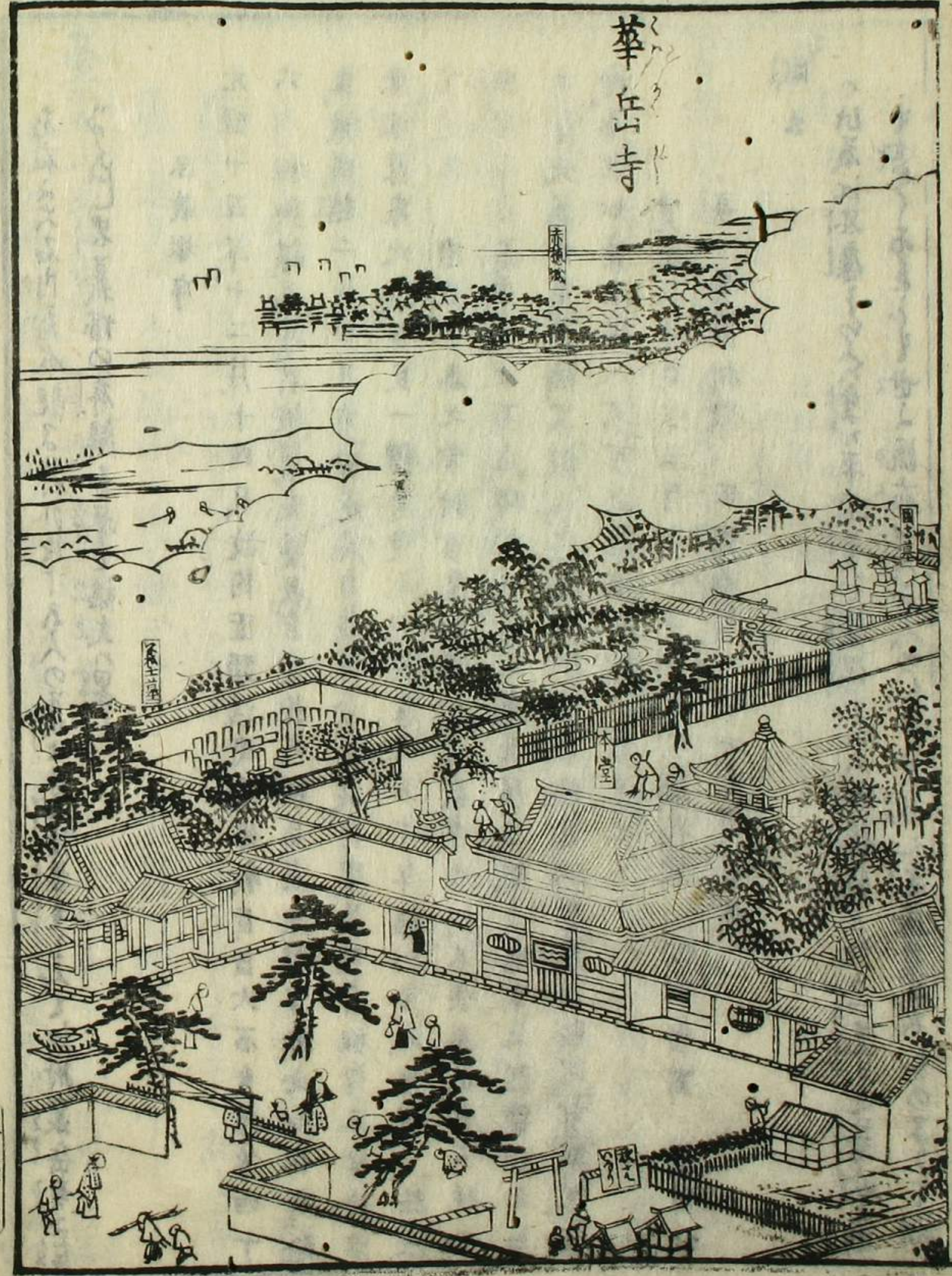
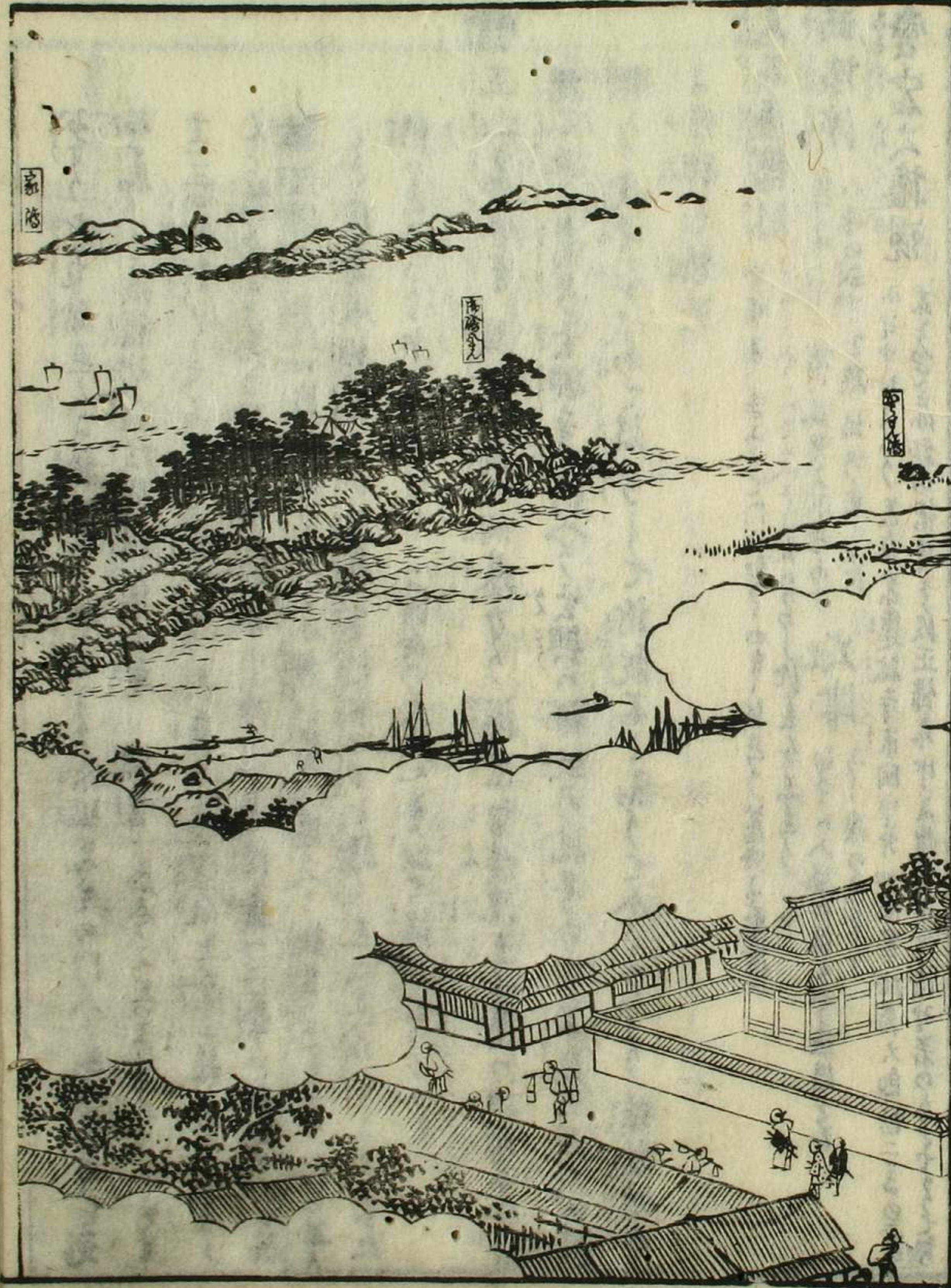
元禄十五年十二月十四日故内匠頭浅野長矩朝臣臣大石良雄等四十
六人相與謀為其君報讐夜襲殺吉良義英朝臣東身歸官官分拘各處
軍議成越二月四日有命遂賜自裁云今不具其事蓋假自祖考三世得君
赤穂恩惠之洽巨民一體遺愛之深其事且五十年語一至此猶涕然泣
下近年府臣某為之管諸君墓於城北花嶽寺中刻石表為民莫不悅令
茲春三月遂重伐巨石立碑於墓道之東屬廉為辭夫諸君之烈譬如日月
之麗天萬世罔隊祓不假人言與彫刻然非此無以慰思焉則不有斯舉又
將為何如廉也郡人不可辭謹為之銘 銘畧之

忠義塚序

寛延三年庚午三月十四日郡人奥藤利栄 松本善宣 柴原敏
長 奥藤利微 田淵春元 柳田吉甫等建

因云

○此は江忠廉よりかきり平埔号と徳陽とくち徳信りたる一先望之墓也
也云々



五三六

少くや元膳上人は稱せらるる壯年より東涯先生の門人となり其學を授けりて後龍中殿後廣徳應之禮儒官と云ふ今又其子孫あり○先生士二三の門人より大石の館又出入あり内務女其の元と筆に後小は一人なりんと稱するあり或日後中殿一推挙し御前より經義一二章と講せし其辨理明く之れが内務女は大き小教ひ家に連るの飲食をせしめ引出物とく内務女幼少の時の指針を級付の刀と稱し其刀今又其の家に傳いまり○其後不嫁となり又世傳の文人と書みて語を乞ふなり

明王山遠林寺

滅山和尚の開基なり 禪宗智積院末之裔の池田家の善

大石屋鋪跡

今明ありきやて門のむのまき跡より荒池と電樹の

西塩濱

甚廣し。城の海中は小橋あり 大津 西の海の内なり

愛宕石大権現

小中村よりあり古言宗遠林寺末嗣山秀如勝軍地大即坊二名の靈

長樂寺

郭の權張其の正純の親よりて遷すは即正純は編ひし所ありき後

尼子山西山寺

砂子村よりあり天石京境内東西百十間

若狭野

奥渡邊恩寺村よりあり和泉武部といふ小武部と易ひし是と云信傳中にも

和泉武部岩本

此若狭野は昔栗の本あり里俗の云若狭はこころ

本森五郎

本森五郎を夫より名あり京都より小武部と拾ひ入りしと和泉武

部

部家又同のよきておしし時雨のくはけ栗の樹のたけありて

志保の洞

志保の洞よりのうらく易名と云今我々のうらひは

草浦

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

家

西山村岳山よりあり早稲の後の政の家臣早稲を草浦と云はし

○砂石集一故鎌倉石大石...
見てもあつたを十人...
たれ...
ま...
ま...
ま...

八保津社

安室谷園村梵天宮...
この社は後...
この社は後...
この社は後...

高峯牛臥天王

安室の山里村...
東社多し...
東社多し...
東社多し...

高雄山津護寺

周世村...
あ...
あ...
あ...

千草川

安室御の...
て...
て...
て...

有年驛

行...
俗...
俗...

有年塚趾

有年村...
赤松信...
赤松信...

六道山遍照院

有年より...
横山...
横山...

用基末洋礎

多...
多...
多...

大小の五輪の塔其敷とあり...
姥が竈...
姥が竈...
姥が竈...

あり近來...
小鈴...
時代...
時代...

五百羅漢

矢...
十...
十...

矢野里

矢野の...
矢野の...
矢野の...

三野山親音寺

矢野の...
後山...
後山...

三本乗都婆

矢野村...
中...
中...

小雁鳥石

有年村...
石...
石...

無燦山

小...
山...
山...

金華山法雲寺

若...
若...
若...

赤松山寶林寺

赤松の...
赤松の...
赤松の...

園心則祐別法禪師

禪師...
禪師...
禪師...

が女寛安尼の像あり又別法和尚の像 寺に繪畫あり清教書村上家の古書に繪甲子年云々
傳曰園心別法和尚又同て曰法は二法に於て別法
とは少中和尚若て曰松は右今のまはは松も又赤松と云ふ事
傳後聖よりたり 紅善より云ふ及んで寺に掛る云々
後ま言傳中真しく松山を以てつゝむ方り

交野光明山松跡

赤松の跡赤松村あり
赤松の跡赤松村あり

感状山松跡

赤松の跡赤松村あり
赤松の跡赤松村あり

鞍馬神社

鞍馬村あり
鞍馬村あり

白旗山古松

赤松の跡赤松村あり
赤松の跡赤松村あり

松則村の次郎と稱は具平親王乃後方り世々播磨の高家族又
て佐用殿赤松の居り 赤松の跡赤松村あり
松則村の次郎と稱は具平親王乃後方り世々播磨の高家族又
て佐用殿赤松の居り 赤松の跡赤松村あり
松則村の次郎と稱は具平親王乃後方り世々播磨の高家族又
て佐用殿赤松の居り 赤松の跡赤松村あり

○園心性實又志ありて入りりちん出るとて欲せん元弘の乱は太塔宮護良親王より
朝敵退治の令有と揚りて園心は又教び奉國若健山に於て
を奉じて支分若者餘人松坂山の里ニテ石に園と居山陽山陰の兩道と塞
きりて西國の石止つて園との勢上居ると云ふを以て園心と稱す
兵を松坂山に拒めて二十余人捕へ候しむ是より園心と稱す
教ふ人の摩邪山と稱して構へて水東の大軍と候し系師より入るは彼羅摩
と美傾け勇威と天下を旌くたり帝還幸はして神女と揚りて又
其功を叙し後播磨の守護職と揚りしは幾らも有り帝還幸と信じて又
播磨の守護職と稱すは是れを以て園心と稱す
兵と奉ひる氏に候し官軍と山崎より候りて園心と稱す
廣の諸將を圍み攻る園心松坂山に候りしは時園心中國の事氏に候り
軍と候りしは是より園心と稱す
又於て是の氏に會ひ是より忠義と云ふは清川に候りて是より忠義と稱す
正平又奉り奉り法雲寺と稱し是れに人より法雲寺と稱す
氏範
聖曰上皇則村の志功名實美の事ありて忠義の士より是れを稱す
これに教ひて奉りて不苦不樂其良の事あり

本日因心功名成奉て若く又其美のふふ如く... 我方のふふを以て奉て若く
のふふは... 正威の忠とてふは因心と表裏せり若くや... 守邊
職と全事とてこれの正威のふふは... 其美心のふふは... 因心の
ふふは... 其表裏... 其美心のふふは... 因心のふふは...
食茶と二三日集ふ... 其美心のふふは... 因心のふふは...
て又... 付乳... 其美心のふふは... 因心のふふは...
苔纏古城 赤穂郡所用の葎苔纏村あり

百濟僧惠便古跡 夫世のて 峯相記曰 欽明天皇の府弓削守屋佛法と云
て其番の傍惠便古跡と攝摩の流以二倍矣其の奥は三年后治後遷
まて右次郎左次郎とて守屋記して百と云ふ又傳とて... 峯相記曰
今日守屋記と撰らるる惠便の攝摩に居る其時佛法は... 流布せ
ば門と人の多敷せり以て迎都又強とて若くあり守屋記と流罪
とてふはあり馬に惠便を名ひ出とて... 敏達十三年にあり
守屋記とて其後又年用明天皇二年より守屋記とて... 惠便
され流るるは... 惠便の百濟より来るる... 守屋記に... 聖年
あり惠便攝摩に居る守屋記の... 日本より来るる... 惠便と右次郎惠便と

所有

右次郎とて... 皆年代を考ふる... 彼... け時惠便と曰く遷居... 傳の
今一人ありこれと惠便と撰らるるや今け傳の里佐と右次郎も右次郎
あり... 傳あり

大聖寺 攝摩 妻室柳あり... 赤松長孫長孫の末孫

舟坂山 山の攝摩... 備後三郎高德墓 備後三郎高德墓 國書に... 備後三郎高德墓

高徳讀書を好む後... 嗣帝... 國へ遷
居る時高德此舟坂山より侯て帝と集んとて小山陽道に種
びて攝摩の今名より山陽道を出て板坂より車駕既よ
る事... 其地國境の邊より... 高德謀室より
かくて... 舟坂山の... 研して

天眞室句踐 時水無危 時水無危 龍泉 龍泉 龍泉

後遂正成力よりて遷幸ありたり
 加りしと危難謀略をなして城を遷らして終つて正成
 合戦ありしより昔に本記よりなり
 延元二年新田義貞兵を舟坂に進めて
 舟坂を占領ししより昔に本記よりなり
 舟坂を占領ししより昔に本記よりなり

播磨名所巡覽圖會卷之五大尾

秦石田之彙輯西播名勝也
 源寺西遊其山水寺祠了
 園之兩以雪立寺六堂矣既
 還渾寫備次編為一帙為因
 凡一百頁遂併授之割刷
 氏云史言人在進士意之所適

山水其甚焉。而山水之所以
愛在位置。向背濃淡瀟灑之
中矣。位置之法。淡死。景狀非
年可狀。其所以可狀。而景
鳥而畫之。所以其狀若存。の
墨直覺。疑之間矣。今西接山水

之尤著者。而然之于。隨拙之畫
其不單。固也。而所謂。日浸于。刻
髮。致之者。亦。法。之。汨。沒。于。刻
刷。之。年。矣。其。復。有。畫。亦。哉。乎
山。之。守。裁。言。人。在。士。名。觀。乎
初。者。乘。除。于。其。間。可。也。

享和三年癸亥春三月
浪華藍江中直跋



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化元年甲子夏四月

大坂書林

柏原屋清右衛門
柏原屋與左衛門
勝尾屋 大兵衛
塩屋 忠兵衛

